

県外派遣報告書	
1 大会名	第76回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会
2 派遣期間	4月23日(土)～24日(日)
3 派遣者	丸山 真輝
4 担当ゲーム	23日12:00～ 男子2位パート 柳ヶ浦一宮崎工業 U2 23日15:00～ 男子1位パート 川内高校一延岡学園 U2 24日9:00～ 女子1位パート 小林高校一大分高校 U2
5 内容	<p>男子2位パート 柳ヶ浦一宮崎工業 CC:小川氏(宮崎A級) U1:江上氏(熊本B級) U2:丸山</p> <p>〈PGC〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリーの確認</li> <li>・ショットクロックの音が小さいため「オポジットが管理」の共有。</li> <li>・チームのスкауティング (留学生へのタイトな守り方。ベンチとのコミュニケーション)</li> </ul> <p>〈ゲームの実際〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・序盤は堅いデフェンスからの速攻で宮崎工業がリード。</li> <li>・2Q中盤、宮崎工業の速攻時に柳ヶ浦の留学生がゴールテンディング。自身がC to Cからゴールテンディングをcallした際、柳ヶ浦ベンチから大きなアピールを受けた。CCが対応してくださった。</li> <li>・宮崎工業がマンツーマン、柳ヶ浦がゾーンディフェンスの時のリードローテーションの区別についてCCからご指摘いただいた。</li> <li>・宮崎工業の最後のFTのリバウンド時に柳ヶ浦の留学生が誤って自殺点。この時、リングより上に跳ねたボールに触れて入ってしまったため1点なのか2点なのかの確認が必要となった。結果2点を記録。</li> <li>・最後は留学生を起点に追いつけた柳ヶ浦が勝ち越し1点差で勝利した。</li> </ul> <p>〈ゲーム後のクルーMTG〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールテンディングの確認</li> <li>・CCから「ゴールテンディング時の騒ぎがノイズとなっしまいリードローテーションに影響を与えてしまっていたのでは」と指摘いただいた。</li> <li>・個人的な反省として、自分が下した判定に対して大きくアピール等を受けた際にCC任せになってしまっていた。CCMを持って落ち着いて説明等のコミュニケーションを図れるようになりたい。</li> </ul>

## 男子1位パート 川内高校—延岡学園

CC:中屋敷氏 (大分 A 級) U1:東郷氏 (宮崎 B 級) U2:丸山

### 〈PGC〉

- ・瞬間的な笛の排除の確認
- ・プライマリーの確認
- ・表示物の管理

### 〈ゲームの実際〉

- ・高いフィジカルや3Pシュートなどで終始、延岡学園が川内高校を突き放し勝利した。
- ・いくつかの現象にてそれぞれのHCから大きくアピールを受けるケースがあり、コミュニケーションを受けるケースがあった。
- ・BIGインパクト等に対しては何かしらの判定がなされていた。

### 〈ゲーム後のクルーMTG〉

- ・フィジカルの差が大きくある中で、「ノーコール」、「マージナル」、「ファウル」をどう見極めていくのか。
- ・HCが伝えたいことがクルー内で共有できていたのか。
- ・個人的な反省としてローテーション時のチェックアウトが遅れてしまい、メカに影響を与えてしまっていた。

## 女子1位パート 小林高校—大分高校

CC:山中氏 (鹿児島 A 級) U1:澤邊氏 (熊本 A 級) U2:丸山

### 〈PGC〉

- ・プライマリーの確認
- ・チームのスカウティング (Key プレーヤー、ベンチコントロール)
- ・前日の自身のチェックアウトの意識をクルー内にて共有。

### 〈ゲームの実際〉

- ・終始接戦で最後まで勝負がわからない展開となった。
- ・常時、小林高校のHCからコミュニケーションを求められた。
- ・3Q序盤、小林高校の0ステップを用いたと思われるレイアップを丸山がトラベリングとCall。小林ベンチから大きくアピールを受けた
- ・4Q中盤、大分高校が得点後に小林高校のHCがタイムアウトを要求。しかしボールがフロントコートまで進められたタイミングでブザーが鳴らされ、試合を中断しレフェリーとTOとで確認した。結果として

	<p>小林高校の HC のタイムアウトの要求は遅かったと判断し小林高校のタイムアウト要求を認めず、フロントコートからショットクロック継続で再開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記のタイムアウトに関する確認後、数ポジション後に小林高校の選手にファウルをコール。その際にタイムアウトのブザーが鳴らなかった、TO にタイムアウトのキャンセルの有無の確認を確認しタイムアウトのブザーを鳴らし、タイムアウトを行った。しかし、小林高校の HC はキャンセルが自動的に行われると考えており納得はして下さらなかった。</li> </ul> <p>〈ゲーム後のクルーMTG〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行う際に適した「ワード」、「長さ」、「タイミング」を確認し合った。</li> <li>・映像を用いてタイムアウトの要求のタイミングを映像で確認したら、大分高校のシュート後に小林高校の HC はタイムアウトを要求しているジェスチャーを見せていた。しかし、ベンチエリアの奥の方から要求していたため TO が確認することが遅れ試合を中断することとなった。TO 任せではなくレフェリーも確認しておく必要があった。その後にキャンセルなしのタイムアウトに関してはブザーが鳴るまではタイムアウトのキャンセルが認められているため、HC に確認してもよかったのではと感じた。</li> <li>・CC からリード時のローションについて試合開始直後は思いっきり行くことのアドバイスをいただいた。</li> </ul>
6 所感	<p>まずはコロナ禍の中、大会運営にご尽力していただきました大分県バスケットボール協会に皆様。そして、今回の県外派遣の参加に際しまして原田審判委員長はじめ、鹿児島県バスケットボール協会の皆様に簡易的ではありますが感謝申し上げます。担当した3試合全てのゲームにおいて県内ではなかなか味わうことのできないようなスケールの試合を担当することができました。そのような経験は審査会を控えたこの時期としては何事にも変え難い素晴らしい経験となりました。また、各県から派遣された同世代のレフェリーたちに久々に再会でき「自分も負けてられないな、頑張ろう。」といったいい刺激をいただきました。今大会を経て経験させて頂いたことを鹿児島県へ還元できるようにこれからも県内活動に精進していきたいと改めて感じました。拙い内容ではありますが、今回大会の派遣の報告といたします。ありがとうございました。</p>